

令和4年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第9号 (果樹)

令和4年9月16日発表 (対象期間: 令和4年9月16日~10月下旬)

●PCでアクセス

ひろしま病害虫情報

掲載アドレス↓
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>



●スマホでアクセス

ひろしま病害虫情報
QRコードはこちら →



△ミカンハダニの発生に注意△

お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム
〒739-0151 東広島市八本松町原6869
電話: 082-420-9662 (直通)

※次回の予報発表は令和5年3月上旬ごろです。

1- (1) かんきつ類 ミカンハダニの発生に注意しましょう

ミカンハダニ

現況

多

予報

多

予報の根拠

●巡回調査では、発生地点率は72.0%、寄生葉率は22.0%で平年に比べ多い発生でした (+)。

●向こう1か月の気温は高い確率が60% (+), 降水量は多い確率が50%です (-)。

(+) : 多発要因
(±) : 平年並
(-) : 少発要因

【防除上の注意事項】

- 果実への寄生により、外観品質を損なうので、基幹防除を徹底しましょう。
- ほ場内に発生が多く認められる場合、防除時期を前倒しましょう。
- 薬剤抵抗性をもった個体の出現を防ぐため、同系統薬剤の連用は避けましょう。
- 薬剤は葉裏にもかかるように丁寧に散布しましょう。



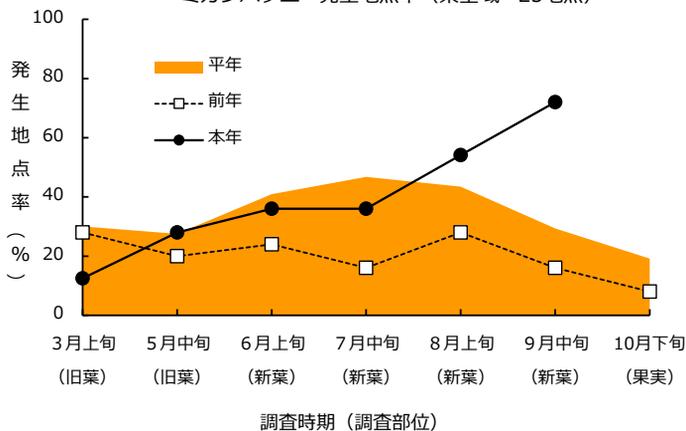
雌成虫
(体長0.5mm程度)



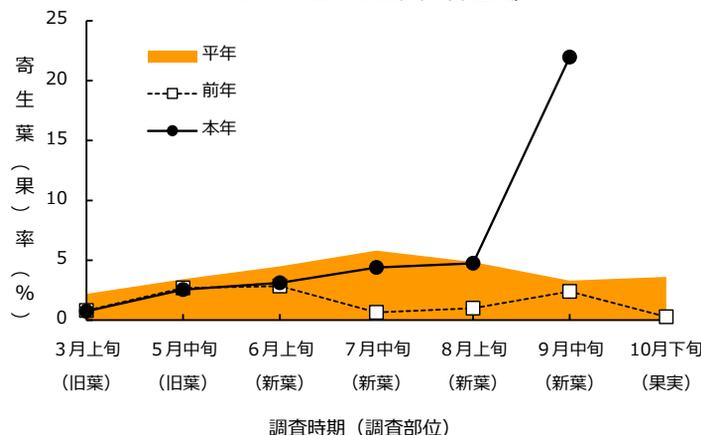
葉のかすり症状

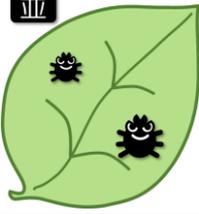
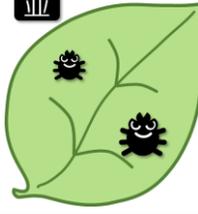
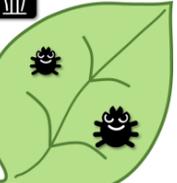
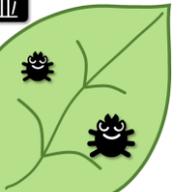
【巡回調査データ】

ミカンハダニ 発生地点率 (県全域 25地点)



ミカンハダニ 寄生葉率 (県全域)



病害虫名	現況	予報	防除上の注意事項
かいよう病			<ul style="list-style-type: none"> ●発病した葉や枝は伝染源となりますので、速やかに樹上から除去するとともに基幹防除を徹底しましょう。 ●気象予報に注意し、台風や大雨が予想される場合は、降雨前の予防散布を徹底しましょう。 ●ミカンハモグリガ食害痕から感染しやすいので、食害された夏秋梢は切除しましょう。
黒点病			<ul style="list-style-type: none"> ●伝染源となる枯枝は速やかに除去し、ほ場から持ち出しましょう。 ●気象予報に注意し、降雨前の予防散布を徹底しましょう。 ●追加防除は、防除後からの累積降雨量が250mmを超えるか、1か月経過したら実施しましょう。
ミカンハダニ			<ul style="list-style-type: none"> ●果実への寄生により外観品質を損なうので、基幹防除を徹底しましょう。 ●ほ場内に発生が多く認められる場合、防除時期を前倒ししましょう。 ●薬剤抵抗性をもった個体の出現を防ぐため、同系統薬剤の連用は避けましょう。 ●薬剤は葉裏にもかかるように丁寧に散布しましょう。
ミカンサビダニ			<ul style="list-style-type: none"> ●裾なり、内なりの果実での発生に注意し、発生園では、9月下旬～10月上旬に防除を行いましょう。
ナシマルカイガラムシ			<ul style="list-style-type: none"> ●移動性が低く圃場の一部に集中して発生することが多いため、寄生部位を中心に周辺の枝葉果実の状況を確認し、見つけ次第捕殺します。 ●マシン油乳剤による越冬期防除の準備を行いましょう。
ヤノネカイガラムシ, イセリアカイガラムシ, ツノロウムシ			<p>【現況・予報の区分について】</p> <p>「現況」「予報」は、「多、やや多、並、やや少、少」の5階級に区分しています。区分は、原則として過去10年間の同時期の調査結果の数値を発生が多かった順に並べ、相対比較しています。</p> <p>「多」 : 1番目(最多年)と同程度以上 「やや多」 : 2～3番目と同程度 「並」 : 4～7番目と同程度 「やや少」 : 8～9番目と同程度 「少」 : 10番目(最少年)と同程度以下</p>
ルビーロウムシ			

①かいよう病		現況	レモン：並 ネーブル：少	予報	レモン：並 ネーブル：少
予報の根拠	<ul style="list-style-type: none"> ●巡回調査では、レモン果実で発生地点率は45.8%、発病果率は4.5%であり、平年並の発生でした(±)。 ●巡回調査では、ネーブル果実で発生地点率は16.7%、発病果率0.2%であり、平年に比べ少ない発生でした(-)。 ●向こう1か月の気温は高い確率が60%(±)、降水量は多い確率が50%です(+) 				
(+) : 多発要因 (±) : 平年並 (-) : 少発要因					

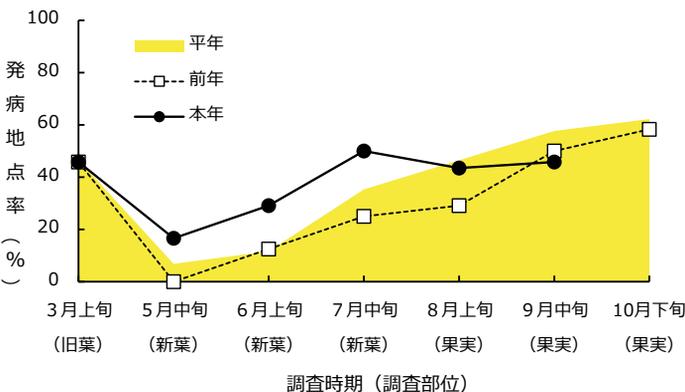
【防除上の注意事項】

- 発病した葉や枝は伝染源となりますので樹上から除去し、ほ場外に持ち出しましょう。
- 気象予報に注意し、台風や大雨が予想される場合は、降雨前の予防散布を徹底しましょう。
- ミカンハモグリガ食害痕から感染しやすいので、食害された夏秋梢は切除しましょう。
- 銅剤散布に当たっての注意事項
 - ・マンネブ剤、マンゼブ剤は混用せずに散布し、これらの剤の散布間隔は7日以上空けます。
 - ・無機銅剤(コサイドなど)の散布を行う際には、クレフノン(希釈倍数:200倍)を加用します。
 - ・高温時の散布を行うと薬害を生じやすいので注意しましょう。

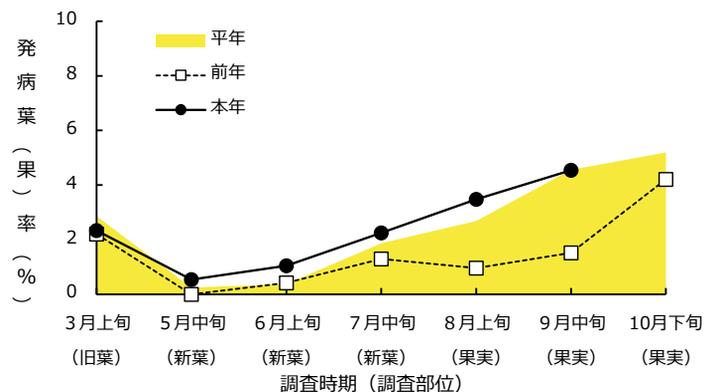


【巡回調査データ】

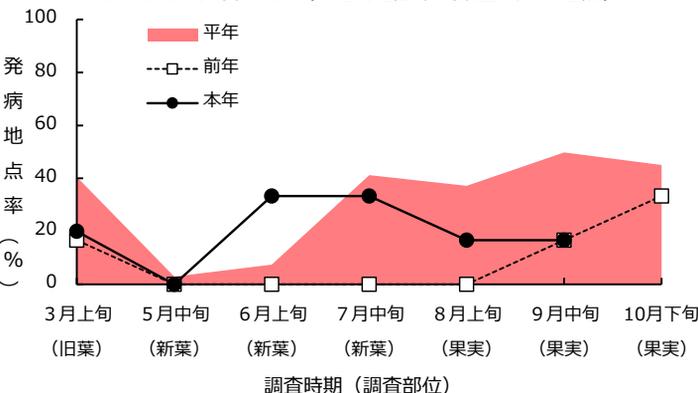
かいよう病(レモン) 発病地点率(県全域 24地点)



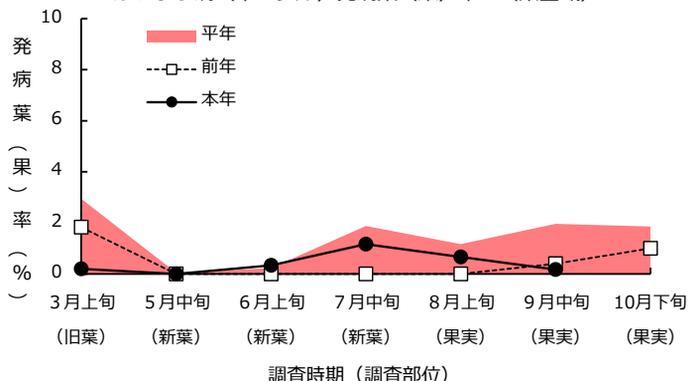
かいよう病(レモン) 発病葉(果)率(県全域)



かいよう病(ネーブル) 発病地点率(県全域 6地点)



かいよう病(ネーブル) 発病葉(果)率(県全域)



②黒点病

現況

少

予報

少

予報の根拠

- 巡回調査では、ウンシュウ、レモン、ネーブルで平年より少ない発生でした（-）。
- 向こう1か月の気温は高い確率が70%（±）、降水量は多い確率が50%です（+）。

- (+) : 多発要因
- (±) : 平年並
- (-) : 少発要因

【防除上の注意事項】

- 伝染源となる枯枝は速やかに除去し、ほ場から持ち出しましょう。
- 気象予報に注意し、降雨前の予防散布を徹底しましょう。
- 追加防除は、防除後からの累積降雨量が250mmを超えるか、1か月経過したら実施しましょう。

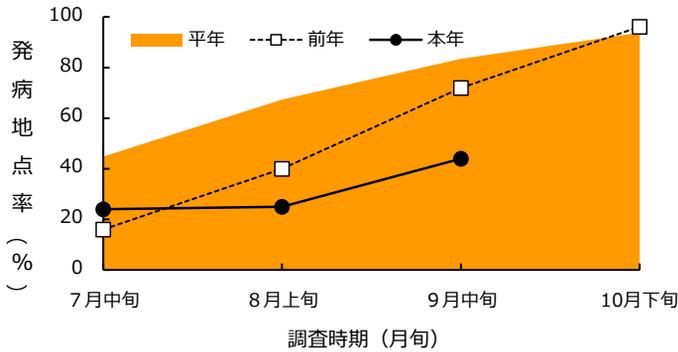
【巡回調査データ】

ウンシュウ発病果

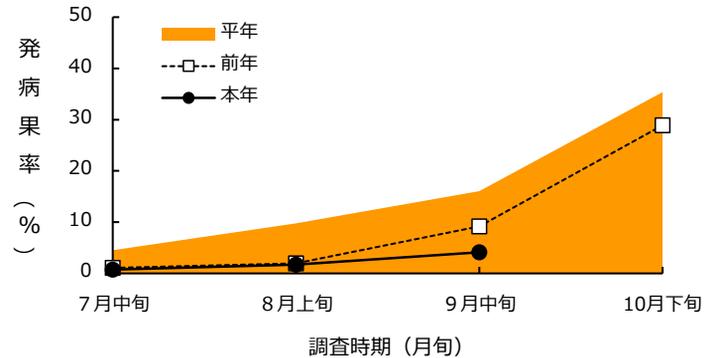
レモン発病果



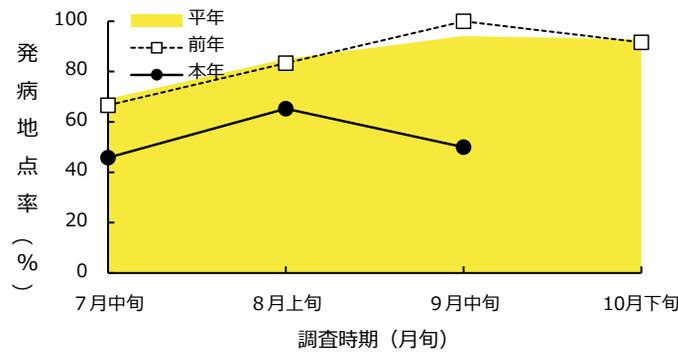
黒点病（ウンシュウ）発病地点率（県全域 25地点）



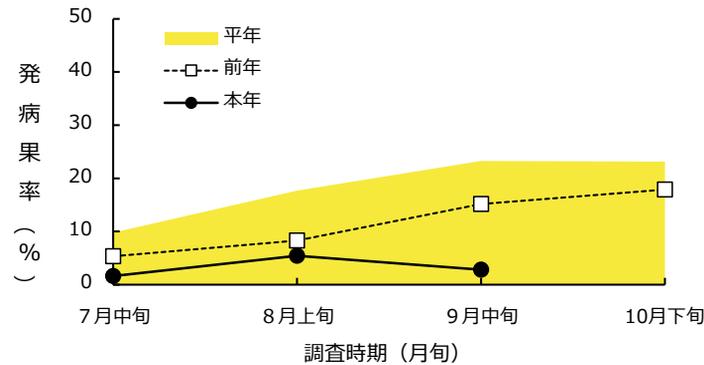
黒点病（ウンシュウ）発病果率（県全域）



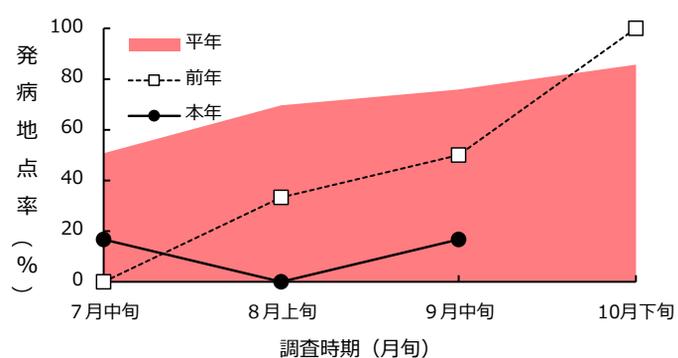
黒点病（レモン）発病地点率（県全域 24地点）



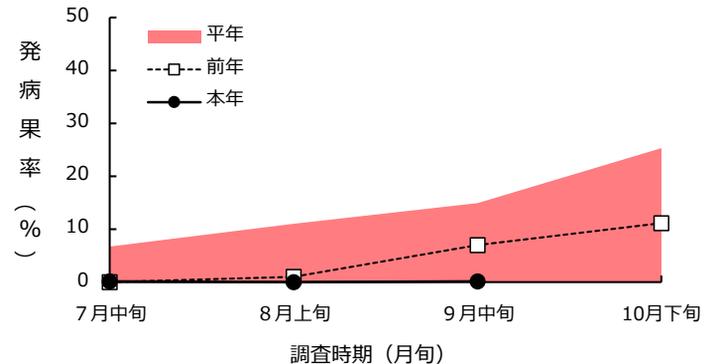
黒点病（レモン）発病果率（県全域）



黒点病（ネーブル）発病地点率（県全域 6地点）



黒点病（ネーブル）発病果率（県全域）



予報の根拠

●巡回調査では、発生を確認していません（-）。

(+) : 多発要因
(±) : 平年並
(-) : 少発要因

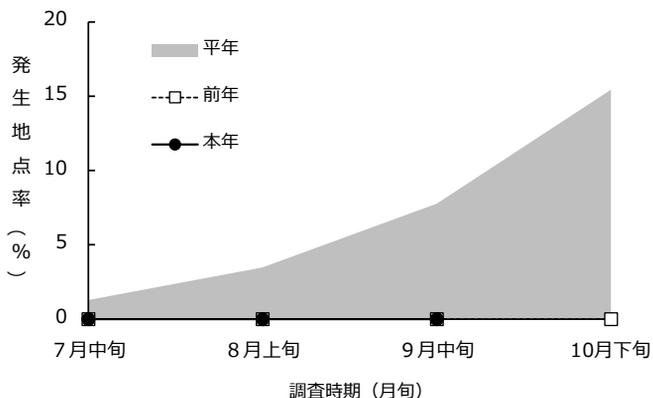
●向こう1か月の気温は高い確率が70% (+) , 降水量は多い確率が50%です (-) 。

【防除上の注意事項】

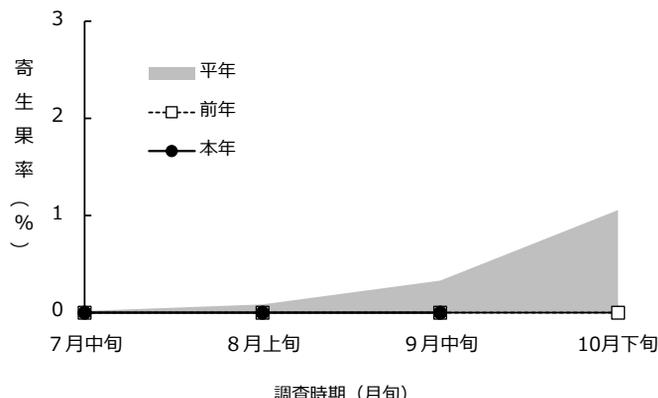
● 裾なり、内なりの果実での発生に注意し、発生園では、9月下旬～10月上旬に防除を行いましょう。

【巡回調査データ】

ミカンサビダニ 発生地点率（県全域）



ミカンサビダニ 寄生果率（県全域）



1- (4)

果樹全般病害虫について

①果樹カメムシの発生について

●チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの半月毎の誘殺数は、7月中旬以降減少傾向ですが、北部の調査地点では、8月下旬以降一時的ですが注意報発表年平均並の誘殺数が確認されています（図1）。

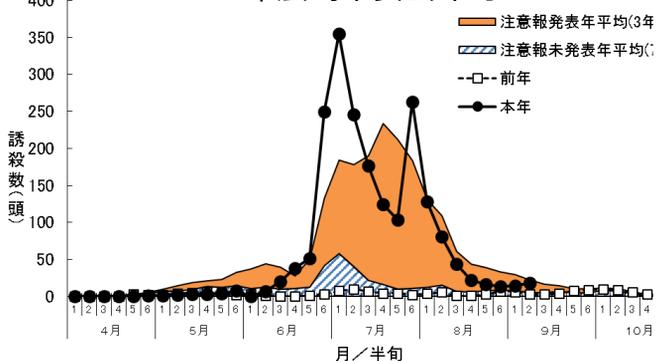
●スギヤヒノキ林が近い園地では、台風の通過後、突発的に園地への飛来が増えることがあるので注意しましょう。

●誘殺状況など今後の情報に注意するとともに、ほ場内をよく見回り、飛来が認められた場合は速やかに防除を実施してください。

●最新の調査データは、広島県のホームページをご覧ください。

(<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/yosatsu-data.html>)

東広島市安芸津町



庄原市高野町

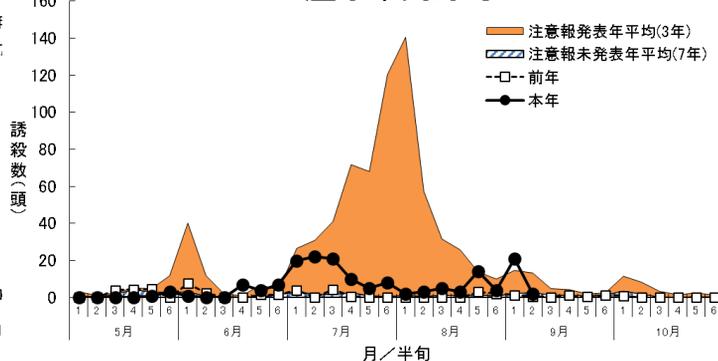


図1 チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの誘殺状況

注1：注意報発表年とは、過去10年のうち注意報を発表した平成24, 26, 令和2年の平均値

注2：注意報未発表年とは、過去10年のうち注意報を発表していない年の平均値

②チャノキイロアザミウマ成虫発生予測



果梗部のリング状被害



チャノキイロアザミウマ
(体長0.8mm程度)

●チャノキイロアザミウマは、主に防風樹として利用されているイヌマキやサンゴジュなどが発生源となり、果樹園に飛来します。この虫に果皮を加害されると外観が著しく悪くなります。

●第7世代成虫の発生ピークを気温から予測すると、9月17日から18日となります。**防除適期は、この7日前からピーク当日です。**

※表1を参考に、発生ピーク予測日に合わせた防除を行ってください。

表1 チャノキイロアザミウマ成虫発生ピーク予測日

今後の気温	発生ピーク予測日	
	第7世代	第8世代
平年より高い (+1℃)	9月17日	10月11日
平年並	9月18日	10月14日
平年より低い (-1℃)	9月18日	10月18日

※生口島アメダスデータに基づく

2

中国地方 1 か月予報

(広島地方気象台9月15日発表、9月17日から10月16日までの天候見通し)

●天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

●向こう1か月の平均気温は、高い確率が60%です。降水量は、多い確率が50%で、日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です(図2)。

●週別の気温は、平年より高い確率が1週目は70%、2週目は60%、3~4週目は50%です(図3)。

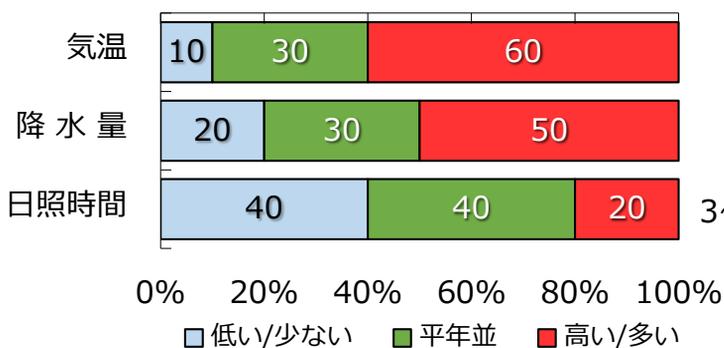


図2 向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間の各階級の確率 (%)

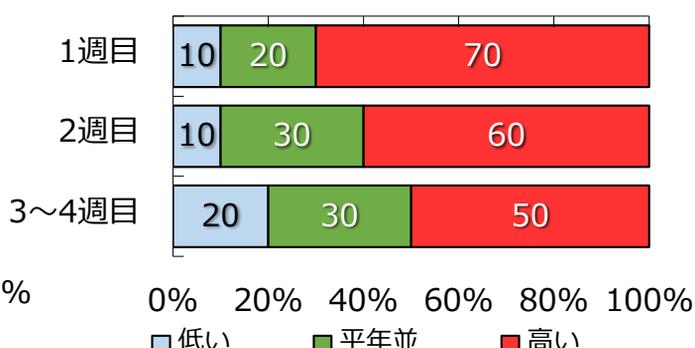


図3 向こう1か月の気温経過の各階級の確率 (%)